



北米ホーリネス教団
オレンジ郡
キリスト教会
「週報」

2015年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 聖書日課に励もう
3. 祈り会に参加しよう
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am
 コヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm
 みふみ会 : 水曜日 10am
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm
 早天祈禱会 : 土曜日 7am
 家庭集会 : 各地区に2箇所
 牧師 : 杉村 幸 (日語部)
 : 益田デーロ (英語部)
 電話 : (714) 827-6244 (教会)
 : (714) 527-1456 (牧師館)
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com
 教会ホームページ : www.occc.org
 教会所在地 : 4872 Bishop St.
 Cypress, CA 90630



◎石叫 ■ 「天国の息子へ」

十月二十五日付の『羅府新報』に「天国の息子へ」というコラムが載った。二〇〇三年にイラク戦争で戦死した息子への母(沖縄出身)の賛歌である。同年六月十九日、ドアをノックする音が聞こえ、玄関に軍服姿の男性が立っていた。それまで軍人の訪問が息子の死を意味するとは、まったく考えられなかった。軍人が帰った後、夫が言った。「トクはもう、戻ってこない」。母、洋子さんはこの言葉の真意を尋ねるのだが、夫は同じ言葉を繰り返した。死という言葉を使わなかったのは、妻を思っていることだったのだろう。トクはその十九日、負傷した米兵を搬送中ロケット弾攻撃を受けた。ほぼ即死であった。

四十九日の夜、初めて息子の夢を見た。「トク、ずっとあなたのことを考えていたのよ」。二度と逃すまいと腕をつかみ、急いで玄関の鍵を閉めた。振り向くと、彼は裏庭にいた。「お願いだから行かないで」。そう叫ぶと、彼は満面の笑みを浮かべて、「お母さん、ありがとう」と言い、天に昇った。息子の死を受け入れられずに苦しむ母を思い、真実を告げに来たのかもしれない。その日以来、トクさんは洋子さんの夢の中で多くのことを教えてくれるようになった。

洋子さんは、トクが死んだことで、たくさんの人々が悲しい思いをした、彼らの悲しむ顔を見て、皆に迷惑をかけたと感じ、世間を騒がせたという気持ちから、彼女は人に会うのが怖くなり、外に出られない日々が続いた。心情に変化が現れたのは、少しずつ外出するようになってからだ。どこへ行っても見ず知らずの人から声をかけられた。彼らは、「生前、トクさんにとでもお世話になりました」「仲の良い友だちでした」「娘が水泳を教わりました」と一様に礼を述べた。自分の知らないところで息子がたくさんの人々の人生に影響を及ぼしていたのだと知った。息子の死から十一年、彼が国のためにどれだけ頑張って命を捧げてきたのか、彼がどれほど素晴らしい人だったのか、今は胸を張って言える、「トク、あんたいい仕事したよ。心から誇りに思うよ。私の自慢の子だよ」

愛する者の死ほど辛いものはない。それは天の父とても同様である。十字架についてまでも私たちの救いのために身代わって死んでゆく一人子イエスを、どんな思いで耐え忍んだであろうかと思う。でも、それはイエスの死を通して私たち人類が救われるための犠牲の死であり、それが天国への道であった。それは何よりも、「あなたはわたしのものだ」(イザヤ四三・1)という神の愛の言葉を私たちに伝えるためであり、あなたを神の自慢の子とするためであった。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

